

MORI MORI TO PRESS

2015 特別号

森田としかず(前埼玉県議会議員)

昭和49年9月熊谷市久保島生まれ
 広瀬保育園、熊谷市立玉井小・中学校、埼玉県立熊谷高校、
 早稲田大学政経学部、カナダ・マギール大学留学、
 早稲田大学大学院博士課程を経て…
 28歳で県議選初挑戦(23票差で次点)、
 県議2期を務めた後、
 平成24年衆議院議員選挙(55,663票で次点)
 平成26年衆議院議員選挙(57,299票で次点)
 現在、介護施設「上川原んち」代表
 【趣味】ものまね、カラオケ、鉄道、旅行、茶道

〒360-0831 埼玉県熊谷市久保島1003-2

tel.048-530-6001 fax.048-530-6002

morimorita 森田俊和

※バックナンバーはホームページからダウンロードしていただけます。



新たな一步を踏み出します！

紅葉や冠雪の便りが聞かれるような季節になりました。皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。さて、このたび、民主党選対委員長の高葉光一郎衆議院議員から民主党の公認候補にならないか、とのご提案をいただきました。私は悩みに悩みましたが、最終的にご提案をお受けする、という決断をいたしました。この経緯や意義について以下まとめましたのでご一読いただき、私の思いをご理解いただきたいと思います。そして、皆様には、ぜひとも引き続きのご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

森田俊和

なぜ国会議員をめざすのか

大学、大学院と政治学を学ぶ中で、政治の現場における実践の必要性を強く感じ、政治家を志しました。

まず私は県議として政治への一步を踏み出しました。最初の選挙では、23票差で惜敗しましたが、次の選挙では当選をさせていただき、以後、自民党所属の県議として2期務めました。その後、国政を目指して自民党支部長公募に手をあげましたが、選考から漏れました。それでも国政を目指した私は、自民党から除名されました。

最初の国政選挙では無所属で立候補、落選という結果となりました。2度目の選挙では、次世代の党の公認候補として立候補しましたが、再び次点となり比例復活することもなく落選となりました。

その後私は、人格を高めるべく勉強を始めました。そして今までの選挙を冷静に振り返り、自分勝手に人のせいにしてきたと自覚し、反省しました。また、何のために政治家になるのか、もう一度考えた上で、改めて「国と地域との架け橋となり、地域の発展のために働きたい」と強く思いました。

再び無所属となった私は、個別訪問、ミニ集会の計画を立て、行動を始めたところ、民主党選対委員長の高葉光一郎衆議院議員よりお声をかけていただきました。民主党の失敗を反省し、二大政党制の基礎をつくり、歴史を動かす、というお話に共感しました。

国政全体の視点から見ると、自民一強ではなく、二大政党がお互い切磋琢磨しながら国政を動かすことによって日本の政治が良くなっていくと私は確信しています。

また、この地域の視点で見ると、自民の現職国会議員に加えて、もう1人国会議員が出せることで、2本のパイプができることとなり、地域の発展に大きく寄与することとなります。

国政の場で仕事をしたいという当初からの志に変わりはありません。人生をかけて、国政に挑戦しています。今、安保問題に際し、自民党の独走を目の当たりにして、二大政党の必要性を痛感しています。

日本の未来をつくるために、私は新たな一步を踏み出しています。

国政への公約

今回の決断をするにあたり、あらためて自分は何をなすべきかを考えました。以下、国政に向けた私の考えをお伝えいたします。具体的な政策というよりは、政策を作っていく上での基礎となる考え方、とご理解いただければ幸いです。

1. もっと「感謝」する国を目指します

「成功とは何か」、「幸せとは何か」、「私が社会に貢献できることは何か」。二度の落選という困難を経て、私は感謝することの意義を学ぶことができました。主体的に感謝することにより、私自身が成長し、人格が高まり、日々幸せを感じられるようになりました。また感謝することで影響の輪が広がり、周りの人たちも明るくなったと感じています。

感謝することは、人を、社会を幸せにします。家庭、学校、企業、そして地域社会においても「感謝」という不変の原則を活かし、新たな国づくりを目指します。

2. もっと「幸せ」な国を目指します

知識、技術の向上だけでなく、『論語』などの古典や幸福学を学ぶ環境を整えます。私たちが幸せな人生を送るためには、自立した人間として、主体的に、価値ある目標に向かって行動することが大切であることを学ぶ機会を設けます。

これらをふまえ、地域の実情、必要性に応じた人材育成を可能とすべく、自治体ごとの教育を可能にする制度を取り入れます。

3. もっと「安心」な国を目指します

いつまでもいきいきと暮らせる社会をつくるため、子育て支援、医療・介護などの社会保障の充実に努めます。

比較的若年層が多い都市部では福祉の分野での若年層の雇用を重視し、地方では、労働基準法の弾力的な運用を行い、シニア世代の人的資源を活用した制度を充実させるなど、地域の実情に応じた制度を導入し、お互いが支え合う制度の充実に努めます。

また、戦後これまで平和な環境の中で、豊かな暮らしを築いてこられたことに感謝し、これからも平和を尊重し、戦争の危険に怯えることなく平穏な生活が送れるよう努力します。

後援会長挨拶



熊谷地区連合後援会長
(埼玉慈恵病院 理事長)

西田 貞之

●後援会長を引き受けた理由 【私の思い】

今、私たちの国は、少子高齢化・人口減少・安保問題そして一千兆円を超える膨大な借金を抱え、待ったなしの社会構造改革に直面しています。こうした社会において、私は、熊谷に国会議員がいなければ、私たちの町は、衰退の一途をたどると、強い危機感を抱いています。これが選挙にける私の思いです。

【森田君の思い】

森田君は、学生時代から国政の場に人生をかけたという「志」を持って努力を重ねてきました。

2人の思いが重なり合い、同じ目標を達成するために、私と森田君は一体となって次の選挙に向かって、

1月から組織づくりを中心に、努力を続けています。

6月11日までは、無所属で出馬し、私たちは最大の努力をしても勝つか負けるかの厳しい選挙になることを覚悟しながら、必死に努力を重ねてきました。こうした中であって、6月に巨大なパワーに出会うことになりました。

●玄葉光一郎先生との出会い

6月初旬、突然に民主党選挙対策委員長の玄葉先生から森田君に電話があり、会食をしながら話をしたいと申し出がありました。そして、6月11日に森田君と私の2人で玄葉先生にお会いしてきました。玄葉先生は、これまでの森田君の得票数の多さに興味を持たれ、森田という人物を見極めるために会食を催したと明言されていました。その上で、森田君に民主党への入党を勧めてくださいました。きっと“人物は合格”と判断していただいたのだと思います。玄葉先生は、民主党の中であって中心的人物であることは勿論、自民党独裁の政治を打破し、アメリカの2大政党を目指し、日本の政治を変えていかなければならないという、強い「志」を持つ人物です。

しかも、強いリーダーシップを持った人であると直感しました。

私は、玄葉先生の明確かつ的確な話し方、私たちの話の聞き方、そしてその「志」の強さに圧倒され、食事が喉を通りませんでした。玄葉先生の政治に対する姿勢、そして生き方に心から共感しました。ふと隣にいる森田君を見ると、食事をすべて食べきっていました。実は、このとき初めて私は、森田君は“動じない”という強さを持った男であることを悟りました。

そして玄葉先生の話の結末は、6月30日までに返事が欲しい、もし良い返事が頂けたら、玄葉氏が全責任を持って森田を当選させるということでした。

私たちはこれまで、無所属として立候補するつもりで活動してきましたので、私も森田君も大いに悩みました。私は約2週間にわたり考え続け、私なりの結論に達しました。結論は、森田君にとって、民主党に入党することがベストであるということです。

その理由は3つあります。

第一に、森田君は自民党から除名されており、12区の自民党議員が同年代であることから、自民党へ復帰する道はないということです。つまり、非自民として立候補する道しかないことを、初めて痛切に感じました。

第二に、無所属ではたとえ当選しても、森田君の「志」を実践する場がないと考えました。

そして第三に、これが私の決断の最大の理由になりました。仮に次の選挙に無所属で立候補して勝利したとしても、おそらく僅差の勝利であり、しかもその次の選挙に民主党から立派な人物が立候補することになったら、当選することは至難であると強く思いました。

この決断の根底には、玄葉氏という大きな存在に威圧されたこともあります。また、選挙でやっと当選できるという状況で、国政に携わっている、地方の活性化と日本の未来に貢献していくという森田君の「志」をまっとうできないとも考えました。

地元の選挙基盤を確固たるものにして、安心して政治に没頭してもらうためには、私たち熊谷党と民主党が一带となることがベストであるという確信に至りました。

つまり、森田君は非自民として立候補する意外に道はないこと、無所属では地位が不安定で、十分な政治活動ができないこと、そして長期にわたる確固たる組織基盤を作る必要があること、この3点が、民主党に入党すべきという私の結論の根拠です。私たちの町から国会議員を送り出すためには、どうしても民主党の

力が必要であるという結論に至りました。

そして民主党のパワーをいただけることになった今、私はこんな夢を抱いています。次回の選挙は、ただ森田君が当選すれば良いということだけでなく、森田俊和がこれから30年間、国会議員として安心して政治に没頭できる環境づくり、すなわち各地に確固たる後援会組織を創造していく絶好の機会であると思っています。ここにお集まりの皆様が、それぞれに主体性を発揮され、一つでも多くの後援会組織を創造してくださることを、切に願っています。

加えて、上田知事は民主党の出身であり、森田君が衆議院議員になれば、知事の県政改革にも良い影響を及ぼすことは確実です。ですから、森田君の選挙に関しても力強い現実的な支援をしてくれるものと信じています。具体的には、熊谷・行田連合体の構築が可能になると期待しています。

森田君自身も、これまでのいきさつから民主党への入党については、かなり悩み、そして、やっと結論に至ったようです。結論は私と同じでしたが、そこに至る過程については、本人が説明すると思います。

●森田君の人格について

私自身の人生を省みて、40歳という年代はまことに未熟でした。医師というだけで、人格については全く考えていませんでした。森田君も、国政を目指しながらも、その人格はまだまだ未熟です。でも、今森田君は、人間学と幸福学について猛勉強をつけています。今年1月から、毎週3回、私たちの研修会に参加し、人格を高めるべく努力を継続しています。私の勝手な評価ですが、昨年までの森田君の人格は30点、今は50点まで人格を育んできたと感じています。

皆さんに理解していただくために具体的な1例を挙げます。

論語の冒頭に

**学びて時にこれを習う また説ばしからずや
朋遠方より来るあり また楽しからずや
人知らずして憤らず また君子ならずや**

と記してあります。

“学びて時にこれを習う また説ばしからずや”とは、学んだことを何度もくり返し復習して、確固たる知識にすること、そしてその知識を行動に移すことはまことに説ばしいことです。つまり知が浅ければ行は浅く、知が深くなれば行は尊くなるという意味です。

“朋遠方より来るあり また楽しからずや”とは、

このような人生を歩んでいると志を持った友が遠方から集まってくる。志を持った友と議論することはまことに楽しいことです。

“人知らずして憤らず また君子ならずや”とは、ときには、自分を理解してくれない人もいます。しかし、それを相手のせいにするのではなく、自分が未熟であるから理解してもらえないと捉える。これが君子の姿です。孔子はこのように教えています。

この教えを、今日皆様にお配りした資料に照らし合わせてみます。これらの文章は、まさに“学びて時にこれを習う”そのものです。森田君と仲間たちが約半年をかけて考え抜いた結果、完成した文章です。そして、玄葉先生との出会いは、まさに“友遠方より来るあり”です。志を持って共に学んできたことによって、素晴らしい人と出会うことができました。

そして、“人知らずして憤らず また君子ならずや”いま、森田俊和を理解してくれない人もいます。しかしこの人たちに憤ることなく、森田自身がその人に評価されるだけの人格がまだ備わっていない。

これから時間をかけて何度も話しかけ納得していただくよう努力をしています。

今、森田君はこうした姿勢で活動しています。このあと、森田君自身が決意を表明します。森田の話の深く傾聴し、合わせて皆様にお配りした2つの資料「選挙公約となぜ国会議員を目指すのか」を読んでもいただければ、きっと森田俊和の成長を感じていただけたらと思っています。

そして、これからも継続して学び続けることにより、森田俊和は確かな人格を育み、立派な政治家になると確信しています。

この半年間、何のために学び、何のために国政の場で働き、何のために生きるのか、毎日のように森田君と話し合い、共に行動しているうちに、今では親と子のような気持ちになっています。息子を育てるために、私は精一杯の努力をしていきます。皆様にも是非、熊谷市の未来をしっかりと考え、森田俊和を深く理解され、これまで以上のご支援を心からお願い申し上げます。



後援会懇談会のご案内



このたび、転機を迎えるにあたり、皆様との懇親の機会を持ちたいと思います。下記の通り、特別ゲストをお迎えし、懇談会を開催する予定です。皆さまお誘いあわせの上、ふるってご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

日時 11月7日(土) 15:30～

場所 熊谷流通センター展示場にて

特別ゲスト 上田 清司 埼玉県知事
玄葉光一郎 衆議院議員

会費 1,000円
(軽食、飲み物をご用意いたします)

お申込方法 森田としかず事務所
FAX(048-530-6002)宛にご送信をお願いいたします。FAXがお使いいただけない場合には、郵送、お電話でもお受けいたします。

お申込締切 11月2日(月)

お問い合わせ 森田としかず事務所(佐野)
TEL 048-530-6001

参加申込票 (FAX 048-530-6002)

11月7日(土) 森田としかず後援会懇談会に **参加します**

お名前

住所

TEL

参加人数

名(ご本人を含む)